

光ケ谷「トンボ池」の復活

トンボ池(ビオトープ)を整備し、再びトンボの飛来を取り戻そう…。豊能町観光協会の呼びかけに、11名のボランティアスタッフが参集した。



自然環境保全・復元は、下草刈から始まる。エンジン音が青貝山の谷間にこだます。



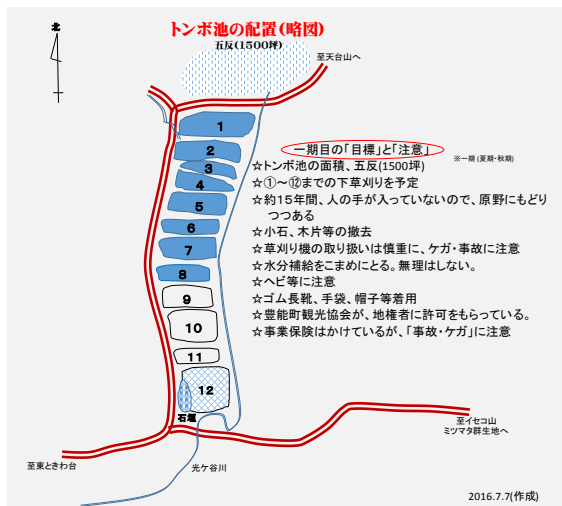
【トンボ池全景】



活動の拠点地の整備、大粒の汗を流し、スギの小枝等を撤去。



いい顔が揃った。新しい町の「顔」づくりに取り組む、歴史の第一歩。トンボが飛来する桃源郷に胸が高鳴る。この先、息の長い道のりとなる…。



【活動の趣旨】

- ① 光ケ谷の自然・財産を次の世代に繋ぐ。
- ② 「トンボ池(ビオトープ)づくり」をし、新しい町の「顔」づくりに取り組む。
- ③ 自然環境の保全・復元を通して、児童たちの多様な体験の場とする。
- ④ 地域のコミュニティの場とする。
- ⑤ 町の観光としてチャレンジしていきたい。

只今仲間募集中!

「♪夕焼け小焼けの赤とんぼ…♪」

誘い誘われて…行ってみたい郷愁の里(吉川村の前身地光ケ谷)、吉川光ケ谷の「トンボ池」。青貝山の北東に位置し、天台山・光明山コース上にトンボ池(ビオトープ)がある。過去、この地にトンボの文化があった。再びトンボの飛来を取り戻そうとしています。トンボ池の整備・清掃作業等、一緒にお手伝い頂ける意気軒昂な方を募集しています。



「一荷合力」で、昔請事業を…

「一荷合力」みんなで力を合わせ助け合い、知恵を出し合って前に進もう。トンボ池の復活に支え手が増えた。トンボの輪が広がっている…。

トンボ池辺りはヤシキ谷と呼ばれ、その一部はヤシキ遺跡指定地でもある。その昔、光ヶ谷に人が住んでいたことが分かる。20年程前までは、ここに稲穂が頭を垂れていたのである。歴史のひと幕に触れさせてくれる。栄枯盛衰を感じる中、トンボが飛来する…のどこである。



※耕作放棄地は使命を終えたものではない。
「トンボ池」という新しい顔に生まれ変わろうとしている。ススキ等の雑草が一面に繁茂する。



R i o 2016 連日歓喜に沸く。
玉の汗・ブヨに刺される中、草刈はつづく。
『人は城 人は石垣 人は堀』の明言があるが、大切なのは人である。作業を通じ人は宝である事を思い知る。



無理のない範囲で作業はつづく…水分補給はこまめにする。作業中、コオニヤンマ・シオカラトンボが飛来する。至福のひと時である。【活動日 2016.8.13 (土) 2回目 9:00-11:00】 【次回活動日 9.10 (土)】

光ケ谷「トンボ池」の復活

保全事業(Ⅲ)



空の空気が入れ替わる。盛夏から初秋へ

と…。トンボ池にオニヤンマが悠々と大空を舞う、その下にヒガンバナが咲きだした。のどかな光ケ谷の里山の原風景。失われたふるさとの自然の復活に大粒の汗を流す。トンボ池は多様な生き物を育む。また、多くの生き物を引き寄せている…コオニヤンマ・シオカラトンボなど、トンボ以外にもタニシ・サワガニ・イモリ(アカハラ)・マムシなども…一喜一憂する。

保全整備の中で少しずつ「知る」「感じる」体験をする。少しずつトンボ池の鼓動が聴こえだした…。息の長い取り組みである。

【2016.9.9】

トンボ池の生き物



ヒガンバナ



コオニヤンマ



サワガニ



タニシ



マムシ



シオカラトンボ

トンボ池の主「オニヤンマ」が、縄張りを主張するかのように飛来する。作業中、捕虫網でコオニヤンマをゲット、図鑑を広げ同定する。多様な生物を呼び戻すことが目標である「知る・感じる」体験タイム。草刈中、泥にあしを取られ転倒も、汚れた体は近くの光ケ谷川(小川)で洗い落とす。このトンボ池に水を張りトンボが棲める環境になるまで長い道のりである…。次の世代へと引き継がれる事を願っている。